

## 第4学年 音楽科・総合的な学習の時間 学習指導案

奈良市立西大寺北小学校 教諭 中村 文子

### 1. 題材名 「ちいきにつたわる音楽に親しもう」

#### 2. 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて気づく。(知識・技能)
- (2) 日本の民謡の歌声や楽器の音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の良さを見いだしながら曲全体を味わって聴く。(思考・判断・表現)
- (3) 日本の民謡や地域に伝わる音楽に興味を持ち、活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、日本の民謡や地域に伝わる音楽の特徴や良さに親しむ。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 3. 題材について

##### (1) 教材観

本題材では日本各地に伝わる「おどりや舞」を教材として取り扱う。一つ一つの舞や踊りは生まれてきた背景や経緯、そこに込められた願いなどに違いがあり、主に3つに分類できる。1つ目は、神様・祭りへの奉納(宗教的ルーツ)。2つ目は、人々の生活と祈り(民衆的ルーツ)。3つ目は、芸能・演劇的ルーツである。どのルーツを持つ「おどりや舞」でも、その魅力、音楽の良さや美しさを感じることができる。また、それを現代まで伝えてきた人々の思いや歴史があることを知ることができる教材である。各地には、様々な「おどりや舞」が伝わっており、その音楽や形式は千差万別である。それは日本の伝統的な音楽の面白さや良さに気づききっかけを与える。

本題材の後半では自分たちの地域(奈良市)に伝わる「おどりや舞」を教材として取り扱う。奈良市を代表する「おどりや舞」として「春日若宮おんまつり神事芸能」が、教科書(教育芸術社)で紹介されている。おんまつりは880年以上途切れることなく行われている祭りで、舞楽や雅楽も現代まで受け継がれてきている。春日大社の南都楽所は、舞楽や雅楽を伝え続けている団体である。映像ではなく、実際におんまつりで踊られている南都楽所の舞を鑑賞し、おんまつりや舞楽について話を聞く活動は、地域の文化を体感することができる。さらに、雅楽の楽器の音色や西洋の音楽とは違う日本独特の音楽の良さを実感し、舞が生み出す迫力や空気感を肌で感じることで、より魅力を見いだすことができる教材である。

##### (2) 児童観

4年生の児童は、音楽を聴いて感じたことを友だちと伝え合う活動を第3学年の頃から続けている。また、第3学年の音楽科では「祭り囃子」について学習し、日本の祭りで使用される楽器の音色に注目して聴く活動をした。祭りで使用される楽器は各地の祭りで同じような種類「太鼓、鉦、笛」が使用されているが、生み出される音色や音楽はそれぞれ違うことを学習している。第4学年では音楽科の本題材と並行して総合的な学習の時間で平城宮跡のことについて学習し、その後「おんまつり」について学習している。これらの学習前に祭りの中でどのような舞や音楽があるかを知っている児童はほとんどいない。春日大社のおんまつりの舞に出会うことで、地域に伝わる舞や音楽の美しさ、受け継がれてきた長い歴史やそれを伝えてきた人々の思いに気づかせ、自分たちの地域の文化に親しみ、大切にしている心情を持てるようにしたい。

##### (3) 指導観

本題材では、音楽の多様性に気づき、文化を継承していく意識と地域文化を大切にしている心を育みたい。

まず、日本各地に様々な「おどりや舞」が伝わっていることを知り、児童が興味を持った「おどりや舞」を紹介文にまとめることで、良さや面白さに気づかせたい。それらを伝え合うことでそれぞれの「おどりや舞」の違いや共通点を見つけることができる。

次に、なぜ「おどりや舞」が現在まで伝わり、今も踊られているかについて思いを巡らすことができるよ

うにしたい。調べ学習や南都楽所の舞の鑑賞は、途絶えていけば目にすることができない「おどりや舞」を、今を生きる私たちが見ることができるといふ感動を与えることができる。実際に鑑賞することでしか得られない、音楽や舞の良さや魅力を味わうことを大切にしたい。

最後に総合的な学習の時間とつなげ、実感したことや気づいたことを友だちと共有させる。舞楽の鑑賞時に作ったメモを参考に友だちと意見を交流する場を設定し、地域に伝わる舞やその音楽に対する感じ方、見方を広げていく活動を行う。児童の思いや気づきを尊重しながら、文化を受け継いでいく自分たちができることは何か？という視点を持ち、地域の文化を大切にすると音楽への関心を育てたい。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

有限性・・・春日若宮おんまつりは880年以上前から行われている祭りで、舞楽はもっと昔の1300年以上前に奈良に伝わった踊りである。その担い手も少なくなっている。

責任性・・・現代まで伝わってきた雅楽や舞楽を未来に伝えていく必要がある。

##### ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

つながりを尊重する態度・・・長い歴史を持つ文化にふれ、それが現代につながっており、それを自分たちも未来へつなげていくことができる。

進んで参加する態度・・・自分たちにできることを考え、行動する。

他者と協力する態度・・・一人では限界があることもみんなで伝え合い、考えることで一つの目標につながっていく。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正・・・次の世代へきちんと引き継いでいく責任が今の時代を生きる私たちはある。

文化を尊重する・・・47都道府県にはたくさんの「おどりや舞」が伝えられていることを知った上で自分の地域の舞や踊りも大切にするとする。

##### ・達成が期待される SDG s



文化を守ることは多様性を尊重することにつながる。持続可能な社会の担い手。



地域に伝わる文化を大切にすることは地域のアイデンティティを大切にすること。それによって住み続けられるまちづくりにつながっていく。

#### 4. 評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に表現する態度
①曲想及びその変化が音色旋律など関わっていることに気づいている。	①歌声や楽器の音色を聴き取り、それらが生み出すよさや、面白さ、美しさを感じとり、曲や演奏のよさをなどを見いだしながら全体を味わって聴いている。	①地域に伝わる音楽に興味をもち、音楽の特徴やよさに親しもうとしている。
②聴いたことや、調べたことを言葉や写真、絵を用いてまとめている。	②感じとった音楽のよさや、面白さ、美しさを他の人にわかりやすく伝える工夫をしている。	②ゲストティーチャーの話を聞き、歴史や文化をつないでいくために自分にできることを考えようとしている。

5. 指導計画（全10時間 音楽科全4時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 日本各地に「おどりや舞」があることを知り、それぞれが興味のある地域の「おどりや舞」について調べ、動画を視聴する。それを元に紹介文をつくり、クラスで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波踊りって名前は知っているけれど、見たのは初めて。</li> <li>・沖縄が好き(行ったことがある)から沖縄の音楽を調べたいな。</li> <li>・舞ってなんだろうって思ったら「鬼滅の刃」に出てくる「ヒノカミ神楽」みたいでカッコよかった。</li> </ul>	<p>○教科書(教育芸術社)のQRコードデータの日本地図と地域に伝わる音楽の一覧を資料として提示する。</p> <p>○視聴する動画も「おどり」や「舞」をそれぞれまとめてロイロノートで送り、気になった「おどりや舞」をすぐに視聴できるようにする。</p> <p>○調べ学習としてインターネットを使用するが、すべてが引用にならないように「紹介文」の形にする。紹介するポイントを提示しておく。</p> <p>紹介ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ「おどりや舞」の魅力</li> <li>・良いな素敵だなと思ったところ</li> <li>・知ってほしいこと</li> <li>・みんなにも見て(聞いて)ほしいところ など</li> </ul>	<p>B鑑賞 ア①②(知識・技能) イ①②(思・判・表)</p>
<p>2 奈良市に伝わる「おどりや舞」は何であったかふりかえる。春日若宮おんまつりに舞があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おんまつり行ったことがある。</li> <li>・おんまつりに行ったことがあるけど、どこで舞をやっているんだろう。</li> <li>・舞があるなら見てみたいな。</li> </ul>	<p>○クラスの中で奈良市の音楽について調べた児童がいない場合は教科書では奈良市の「おどりや舞」として何が紹介されているか確認する。</p> <p>○おんまつりのことは知っているのに舞を知らないことに気づかせる。(実際のまつりの中で舞は夜に行われている)そこから実際に見てみたいという興味関心を持てるようにする。</p>	<p>B鑑賞 ウ①(主体)</p>
<p>3 南都楽所さんに来てもらい、春日若宮おんまつりで踊られている舞を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お面(ちょっとこわい)をつけている。</li> <li>・動きがとってもゆっくりだな。</li> <li>・足の音が大きくてびっくりした。</li> <li>・静かなのに迫力がある。</li> </ul>	<p>○西大寺北小学校では毎年、6年生が雅楽の鑑賞するために南都楽所さんをゲストティーチャーとして招き出前授業を行なっている。そこに4年生も参加して舞を鑑賞し、自分の地域に伝わる音楽に実際に触れる。</p> <p>○鑑賞やお話を通して舞の魅力や歴史、現在までどうやって伝わってきたかなどを知り、自分たちがどう関わっていくか考えるきっかけをつくる。</p>	<p>B鑑賞 ア①②(知識) イ①(思・判・表) ウ①(主体)</p>

ここからは総合的な学習の時間として取り扱うので参考として指導計画を記す。

(総合的な学習の時間全6時間)

<p>4 南都楽所さんのお話を聞いたり、実際に舞を見て気づいた魅力や印象に残ったことなどを中心に感じたことや気づいたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣装が手作りにことに驚いた。</li> <li>・お面の仕組みが面白い。</li> <li>・雅楽をやる人がいないって言っていた。</li> </ul>	<p>○出し合ったことをテーマごとに分ける。それぞれ次の活動の資料にする。</p> <p>○担い手が少なくなっていること、見る人も少ないことに改めて気づかせ、そこで自分たちにできることはないかという思いにつなげる。</p>	<p>聞いたり、見たりした情報を整理して、自分の言葉でまとめることができている。(知識・技能)</p> <p>自分の考えや感じたことを表現している。(思・判・表)</p> <p>自分の考えを持って取り組んでいる。(主体的)</p>
<p>5 テーマごとにグループに分かれ、絵や文にまとめ、雅楽や舞楽を知らない人に紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞を実際におどったらわかりやすいかな。</li> <li>・絵で衣装の模様やお面を描くとわかりやすいな。</li> <li>・「越天楽今様」を歌いたい。</li> <li>・楽器の紹介も必要だな。</li> <li>・まずはおんまつりや奈良について知ってもらいたいな。</li> </ul>	<p>○どんな人に伝えるか考えさせる。実際に児童から出た意見の中に「低学年に伝える」「外国の人」という意見が出た。そこから4年生の担任の中に昨年度までカンボジアの小学校で働いていた職員がいるため、カンボジアの小学生に伝えてみないか?と提案した。</p> <p>○第4学年の前半の総合的な学習の時間で防災のことについて学習をしているため「やさしい日本語」について学習し、カンボジアの小学生に伝わりやすい日本語でまとめる。なお、交流先のカンボジアの小学校は日本人の先生も多数在籍しており、通訳ができる教員がいる。そして日本語の学習をしているカンボジアの小学生である。</p>	<p>友だちと意見を出し合いながらまとめを進めている。(知識・技能)</p> <p>分かりやすく伝える工夫ができている。(思・判・表)</p> <p>発表に向けて進んで役割を果たそうとしている。(主体的)</p>
<p>6 オンラインでカンボジアの小学生と「伝統的な音楽」の交流をする。</p> 	<p>○「奈良やおんまつりについて」、「雅楽について」、「舞楽について」の3つのテーマに分け、そこから小グループに分かれて発表する。</p> 	<p>友だちと協力して発表をする。(知識・技能)</p> <p>伝わりやすく工夫して話をする。カンボジアの音楽文化と日本の音楽文化の似ているところと違うところを見つけながら発表を聞く。(思・判断・表)</p> <p>自分の役割を果たそうとしている。(主体的)</p>

※オンライン交流の様子

## 6. 成果と課題

本学習の成果は3つある。1つ目は、雅楽や舞楽に実際に触れる体験を通して地域につたわる音楽文化への興味と意識の変容である。音楽科の本題材は日本全国の「おどりや舞」の調べ学習（学習活動の1）で終わることも多い。しかし、そこで終わらずにもう一度、「自分の地域」に着目することで自分たちの住んでいる地域の音楽文化に興味を持たせることができた。そしてゲストティーチャーから学ぶことで調べ学習ではたどり着くことができない情報を知り、動画を視聴するだけではわからない臨場感や空気感、独特な音色が生み出す美しさを感じることができた。その結果、児童にとってとっつきにくい「雅楽」や「舞楽」が身近なものとなり、それを「自分たちの地域に伝わってきた音楽文化」として捉えることができた。

2つ目は伝えようとする意欲の高まりである。自分たちが演奏家にはすぐにはなることができないが、「学習したことを活かして自分たちに出来ることは何か」を児童自らが考え、発信することができた。また、伝え方として「やさしい日本語」についても学習したが、今回の原稿だけに留まらず、自分たちの身近なところで「やさしい日本語」がどのように使われているか興味を持ち発見する児童が多数いた。さらに、オンライン交流でお互いの感想を伝え合う際、本校の児童がやさしい日本語を意識して話したことにより、通訳を介さずカンボジアの児童へ言葉が通じ、互いに喜び合うことができた。言葉の選び方やそれが伝わることの喜びを感じられたことは、本学習だけでなく今後の大きな成果となった。発表資料においても、わかりやすくするために写真を探したり、ペープサートを用いたり、紙芝居風のスライドを作成するなど工夫が多数見られた。

3つ目は自国の音楽文化を深く理解した上で、他国の音楽文化に触れることにより、自国の文化も他国の文化も大切にしようという意識が高まったことである。交流後のふりかえりでは、多数の児童が「日本とカンボジアの音楽の似ているところと違うところ」を見つけることができた。また、児童が作成した発表原稿には「おんまつり」「雅楽」「舞楽」のどのテーマにおいても「現代まで大切に受け継がれてきた」「昔から変わらず、人々の大切なことを伝え続けている」という言葉が見られた。

課題も3つある。1つ目は音楽科の学習として4年生に雅楽の鑑賞を行なったことである。舞楽と共に雅楽を鑑賞したが、社会科で歴史を学習していない4年生にとって、その歴史や背景を理解することは難しかった。また、音楽的にも拍がなく、速さもゆっくりとした音楽は4年生が普段鑑賞している音楽と比較して難解に感じる児童もいたと考えられる。「越天楽今様」を歌唱した際も、古語の歌詞を歌うのが難しいという声が聞かれた。音楽科の学習に対して意欲的な児童が多く、ゲストティーチャーを招いたことで関心は高まったものの、やはり第4学年での学習は時期尚早であったと感じる部分がある。

2つ目は、カリキュラム・マネジメントの課題である。音楽科の時数だけでの完結は難しく、総合的な学習の時間も活用して進めたが、どの程度を各学級担任に割り振るべきか手探りであった。結果としてこちら（専科）でまとめてしまうことが多く、もう少し連携を密に取り、学級担任の裁量で進めてもらう場面があっても良かったと考えられる。

3つ目は、交流のねらいの明確化と共有についてである。交流すること自体が目的となり、本来のねらいが置き去りになる危険性がある。今回は相手校も日本との交流経験が豊富だったため、事前の打ち合わせで「楽しいだけの交流で終わる懸念」について共有いただいた。そのため、「音楽文化の交流から、自国・他国の文化を大切に作る心につなげる」というねらいを再確認できた。言語の壁があるため詳細な文化交流は難しいが、だからこそ、単発の交流であっても授業者が「なぜ交流し、何を伝えるのか」という意義を持ち続ける必要がある。また、協働する学級担任ともその意識を統一することが重要だが、今回はそこに温度差が生じてしまった。音楽専科として教科横断的な学習を進める際は、学習のゴールや意図の疎通をより丁寧に行っていきたい。